

八王子市立第三小学校

令和8年度 学校経営計画

校長 大宝院 清孝

1 学校経営目標

【自分も人も大切に作る学校は、地域運営学校の組織力と教師の力で】

八王子市立第三小学校は、八王子市の教育ビジョンに則り、多くの教職員、保護者、地域の方々の長年の努力によって築き上げられた伝統を大事にしつつ、変化の激しい社会に主体的に対応できる人間を育てるため、教育における不易と流行を意識した学校経営を進める。

とりわけ、公教育の目的である基礎学力の定着・向上と人格形成の両面を重視し、個に応じたきめ細かな教育活動と互いを尊重し合える集団づくりに取り組み、保護者・地域の信託に応える学校づくりを進める。

2 学校経営の基本的な考え方

学校の教育目標(育てたい子ども像)

児童が互いにかけがいのない人間として尊重し合い、集団、自然、文化、伝統に積極的にかかり、心を磨き、知を輝かせ、心身を鍛える教育を推進する。

やさしく かしこく たくましく

[やさしく]・・・やさしい心もち、自分も人も大切に作る児童 (人権教育の目標)

[かしこく]・・・進んで学び考えながら、協働して課題に取り組む児童 (六中との接続)

[たくましく]・・・自分から心や体を鍛え、前向きに行動する児童

(1) 基本理念

義務教育をとおして児童生徒に身に付けさせたい力を「自分の人生を自分の責任で生きていく力」(個)、「社会とのかかわりの中で自分を生かす力」(公の中の個)と捉え、徳・知・体にかかわる基礎基本の指導を中心に子供なりの品格と教養をはぐくみ、将来、地域・社会に貢献できる健徳で自立した人間を、義務教育9年間を視野に入れて育成する。

(2) 目指す学校像【自分も人も大切に作る学校】

① 児童が成就感、満足感を味わえる学校

学習、行事、日常活動をとおして必要なことをしっかりと学び、その上で目標に向かって主体的に努力することで、児童自身が自らの進歩、成長を実感できるようにしていく。

② 教職員が専門職としての自覚と高い指導力を持ち、協働し、学び合う学校

教育者として児童や保護者との確かな信頼関係を築くため、一人一人が日々の言動に責任をもつとともに、常に向上心を持ち、互いに協働し、切磋琢磨するなかで個人の力量(資質・能力)を伸ばすことで、組織としての学校力を高める。

③ 地域運営学校として保護者・地域と共に歩む安心・安全な学校

地域運営学校として保護者・地域に支えられている学校であることを認識し、様々な教育活動を保護者・地域と共に進め、学校の情報を共有することで本校の教育に対する理解を高めるとともに、学校も地域の活性化に向けて様々な事業に協力していく。

また、いじめ問題や学校防災等の今日的な教育課題を踏まえて教職員の危機管理意識を高めるとともに、校内外の環境や安全体制づくりについては保護者・地域との連携を深め、子どもにとって居心地のよい学校を実現する。

④ 1+9年間を見通して教育を進める学校

卒業生の多くが第六中学校へ進学する現実を踏まえ、公教育の使命である児童の学力定着、人格形成を9年間のスパンで考えていく。そのため、双方の文化の違いを理解するための教育活動、研究活動を意図的、計画的に行い、特に小学校6年と中学校1年間の接続を円滑にしていく。また、就学前1年間を意識し、保育と教育の効果的な接続を実現する。

(3) 今年度(令和8年度)の重点・・・全職員で取り組む「支持的風土のある集団づくり」

本校は、「人権教育」「小中一貫教育」「保幼小連携」「保護者・地域の教育力を生かした教育活動」を学校の特色として、義務教育の目的である児童の基礎学力の定着・向上や人格形成に一段と努めてきた。昨年度の児童の学校への満足度(肯定的割合)については、「学校に楽しく通っている」が85.3%、「学校の勉強は楽しい」が77.6%と、昨年度より2~5ポイント上回っている。学力の面では、学力調査(4~6年)を一つの指標としており、4・5・6学年で市平均を上回った。人格形成の面では、人権教育をとおして育てている自己肯定感について、肯定的に回答している児童の割合が79.1%であり、わずかに目標に届かなかった。

そこで令和8年度は、本校の特色を生かしつつ、これらの課題の克服を目指して、学習面でのきめ細かな指導や支持的風土のある学級(学年)集団づくりに継続して取り組む。特に「人の話を大切に聞く」を重点とし、授業や日常生活でも友達の話をお大切に聞き合う風土を作ることで、基礎学力の定着・向上や人格形成を図れるようにする。そのために、学校の組織力を一層高め、学習指導、生活指導、危機管理対応にあたるとともに、教育活動の公開、主体的な情報発信に力を入れ、保護者・地域からの学校教育への更なる理解を図る。

学校経営のポイントとしては、地域運営学校での計画的な取組、基礎学力の確実な定着に向けた教育の推進、新学習指導要領の理解などがある。また、開校120周年を迎える年度でもあり、「子供とともに創る」周年行事としていきたい。

3 中期的な目標と方策 ※客観的な成果把握が可能な項目に成果指標を設ける。◎は、令和7年度に重点として取り組むこと

(1) 学校教育目標(目指す児童像)に関すること

①「やさしく(品格)」の実現 — やさしい心を持ち、自分も人も大切にする児童 —

≪目標①≫ 「挨拶」「返事」「言葉遣い」等の礼儀や規範意識の醸成

小学生としての自立の第一歩として、社会における常識、特に「挨拶」「返事」「言葉遣い」等の礼儀や規範意識について、授業、日常生活をとおして全教職員で指導し、身に付けさせる。

[今年度の重点と方策]

◎子供の品格として必要な基本的な生活習慣として、教師が率先して「挨拶」「返事」「言葉遣い」等の礼儀について範を示す。「挨拶」については、生活指導部より新たな取組を提案し、更に意識の高まりを目指す。

◎会釈を伴う挨拶、相手に聞こえる気持ちの良い返事、相手を意識した言葉遣い、「100年後もきれいな校舎」をキャッチフレーズとした清掃指導等について、年間をとおして日々の生活や授業の中で徹底して指導することで、互いを受容しあえる支持的風土のある学習、生活集団をつくる。

[成果指標]

- ◇児童アンケートの「挨拶」の項目で、肯定的回答90%以上を目指す。
- ◇保護者アンケートの「学校は子供の生活指導に熱心に取り組んでいる」について、肯定的回答90%以上になることを目指す。

≪目標②≫ 将来の夢や生き方を考える力の育成

自分と社会との関係、社会の仕組みについて理解し、将来に対する夢をもてるようにするとともに、自らの生き方を考える力を身に付けさせる。

[今年度の重点と方策]

- ◎社会科や総合的な学習の時間等を活用したキャリア教育を実施し、児童に働くことの意味を考えさせるとともに、将来に対する夢や希望をもてるようにする。
- ◎職場見学(3年)、地域調べ(4年)、安全マップづくり(5年)に加え、学校の特色として「ドクター肥沼」の学習を、6年生で実施する。

[成果指標]

- ◇保護者アンケートの「将来の進路や職業」の項目で、肯定的回答80%以上を目指す。
- ◇全国学力調査児童質問紙「将来の夢や目標をもっていますか」で肯定的回答80%以上を目指す。

②「かしこく(教養)」の実現 — 進んで学び、ねばり強く課題に取り組む児童 —

≪目標③≫ 「読む」「書く」「計算する」の定着

GIGA スクール構想に基づき、ICT を効果的に活用することで、「読む」「書く」「計算する」といったすべての学習の基盤となる力を小学校の責任として確実に定着させる。

[今年度の重点と方策]

- ◎一人一台学習端末の効果的な活用を校内で検討し、個別最適な学びの実現を図る。
- ◎「三小家庭学習ガイダンス」に基づく学校の考えを4月から周知し、家庭学習週間を設ける(1、2学期)などの工夫をしながら家庭学習(学年×10分+10分)の習慣化を図る。
- ◎はちおうじっ子ミニマムの結果を活用して、基礎的な学力の向上を図る。

[成果指標]

- ◇市の学力調査(4~6年)で、市平均を上回る。
- ◇1・2年生の算数について重点指導項目を明確にし、未習得児童へ組織的に支援する。
- ◇児童アンケートの「家庭学習」の項目で、肯定的回答80%以上を目指す。
- ◇はちおうじっ子ミニマムの結果が5割未満の児童が、二回目で5割以上正答できることを目指す。(6年)

≪目標④≫ 思考力・判断力・表現力の育成

問題解決的な学習(探求、活用)をとおして自ら考え、判断し表現する力を身に付けさせる。

[今年度の重点と方策]

- ◎各教科等の学習において「自分の考えを書く活動」(ノート指導)、「互いの意見を交流させる活動」「話し合い指導」を意図的に取り入れ、聞く力、話す力、伝え合う力の育成を図る。
- ◎3年生以上の算数、社会科、理科、総合的な学習の時間を中心に問題解決的な学習(自ら調べ考え表現する)を展開し、ノート、ワークシート等にその学習の跡を残す。
- ◎市の学力調査を最大限活用し、個に応じたきめ細やかな学習支援を行う。

[成果指標]

- ◇国の学力調査で、平均を上回ることを目指す。
- ◇市の学力調査で、思考力・判断力・表現力の結果が市平均を上回ることを目指す。

≪目標⑤≫主体的に学習に取り組む態度の育成

児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるとともに、学校図書館を計画的に利用し児童の自主的・自発的な学習活動や読書活動の充実を図る。

[今年度の重点と方策]

- ◎毎時間の授業のねらい(課題)を児童に示し、授業の最後にその時間に学んだことを必ずふりかえらせる。
- ◎図書館教育部、図書館サポーター、図書ボランティアの連携により、学校図書館利用計画に基づく学校図書館の積極的な活用、図書の時間や朝読書の有効活用を図り、児童の語彙を増やし教養をはぐくむ。

[成果指標]

- ◇児童アンケートの「学校の勉強は楽しい」の項目で、肯定的回答が80%以上を目指す。
- ◇おすすめの本10冊や学校図書館の本を年間100冊以上読む児童(1~3年)、また年間1万ページ以上読む児童(4~6年)など、表彰される児童が150名以上になることを目指す。

③「たくましく(壮健)」の実現 — 自分から心や体を鍛え、前向きに行動する児童 —

≪目標⑥≫体力の向上

運動への関心を高めるとともに、児童の体力の状況を把握し、強い心と体力向上を図るための独自の取組みを進める。

[今年度の重点と方策]

- ◎体育の授業において20分以上の運動量を確保する。
- ◎年間をととして体育指導(課題克服のための運動の体育の指導計画への位置づけ、マラソン週間、縄跳び運動の計画的な実施と児童への意欲付け)の更なる充実を図る。

[成果指標]

- ◇体力調査の結果の合計得点が、全学年、都平均を上回ることを目指す。
- ◇ソフトボール投げの結果において、全学年、都の平均を上回ることを目指す。

≪目標⑦≫食育の推進

食材、食文化を大事にし、食に対する感謝の気持ちををはぐくむ食育を、栄養士との連携のもと推進する。

[今年度の重点と方策]

- ◎給食指導を中心に食材や食文化への関心を高めるための児童への働きかけを意図的に行う。朝食(摂ること、バランス)については、改めて家庭への協力を依頼する。

[成果指標]

- ◇年間6回以上の食育の取組を実施し、ホームページにアップして保護者への理解を図る。

(2) 学校経営上の視点に関すること

① 特色ある学校づくりの推進

《目標⑧》三小支援ボランティアとの連携

学校支援コーディネーターを中心とした三小支援ボランティア（学び、遊び、図書）や Cocco 等との連携により、学習環境の整備、教育活動の充実に努め、学校の特色としての教育（共育）を推進する。

[今年度の重点と方策]

- ◎教育活動の支援としてのボランティアシステムであることを認識し、計画的な運用を心掛けるとともに、児童にも本校の特色としてそのよさに気付くことができるようにする。
- ◎学校も保護者や地域の行事に計画的に参加し、保護者、地域の願いや期待を知るとともに、地域で子供を育てる意識をしっかりともつ。

[成果指標]

- ◇地域アンケートの「教職員は地域を大切にしている」の項目で、肯定的回答が90%以上を維持することを目指す。

《目標⑨》郷土学習の推進

郷土学習の推進に向け、市制100周年事業で取り組んだ内容を基盤に、継続して八王子の歴史や文化、自然に対する理解を深め、より一層八王子市への愛着や八王子市民としての誇りを育む。

[今年度の重点と方策]

- ◎とんとん昔語り（1～6年）、まちたんけん（2年）、桑都とよばれるひみつ（3年）、とんとん昔話のあったところ（4年）、八王子の自然を守れ（5年）、日光と千人同心（6年）、ドクター肥沼（6年）等の取組をとおして、八王子市に対する理解と愛着を高める。
- ◎ヨハニッター小学校との教育連携の取組を推進する。

[成果指標]

- ◇全ての学年で八王子の歴史や文化、自然を学ぶ学習活動を充実させる。
- ◇絵画交流を持続可能な取組とする。（1・2・3年）

② 人権教育の推進

《目標⑩》人権尊重教育推進校としての取組の継承

2年継続研究の1年目として、研究推進委員会を中心に昨年度までの成果と課題に基づいた実践を進める。とともに「自分も人も大切に作る児童の育成」に向けて、教職員で共通理解を深め、令和8・9年の研究は「安心感を醸成する『言葉の力』を育む指導」を進める。

[今年度の重点と方策]

- ◎年間3回の研究授業をきっかけにして「自尊感情」の高揚を図る。特に今年度から、「言葉の力」を育むための取組の一つとして、「朝鑑賞」を実施する。
- ◎全教育活動を通して児童の自己肯定感を高めることをねらいとして人権教育を進める。本校の特色である「社会的スキル」を育む学級活動の学習は、年間指導計画に基づく実践を確実に行う。
- ◎都の人権教育プログラムに掲載されている授業案の検証を含め、人権課題を扱う授業を、特に4年生以上で実施する。（発表年度には人権課題を扱った研究授業を1本行う。）
- ◎12月の人権週間を通じて、いじめ問題などの人権問題を児童が主体的に考える機会とする。

[成果指標]

- ◇児童アンケートの「自分のことが好きである」の項目で、肯定的回答が80%以上を目指す。
- ◇児童アンケートの「困っている友達がいたら助ける」の項目で、肯定的回答が90%以上を目指す。
- ◇児童アンケートの「自分の思っていることや意見を言うことができる」の項目で、肯定的回答が80%以上を目指す。

③小中一貫教育、幼保小連携の推進

≪目標⑪≫小中一貫教育の充実

小中一貫教育を継続、充実させ、義務教育9年間で常に意識した教育が恒常的に実践できるようにするとともに、小中の円滑な接続を実現する。

[今年度の重点と方策]

- ◎年間5回実施される共同研究(児童生徒交流会)等とおして、双方の教員の指導観や学力観、子供観の相互理解をより促進する。
- ◎各分科会ごとに児童生徒の様子を共通理解し、課題を改善するための指導の系統性、連続性について分科会を中心に検討を進め、明確にしていく。

[成果指標]

- ◇学校の小中一貫教育に対する取組姿勢について、保護者の肯定的割合が90%以上を目指す。
- ◇各分科会で共通テーマを設定し、年度末には成果物とともに発表する。

≪目標⑫≫保幼小連携の継続

八王子市の進める保幼小連携として、近隣の保育園・幼稚園と交流を深め、保育園・幼稚園と小学校の生活と学びの円滑な接続を考えることができるようにする。

[今年度の重点と方策]

- ◎連携保育園・幼稚園との教師・保育士交流(授業・保育参観、協議)、児童・園児交流、合同避難訓練の他、連携保育園・幼稚園との協議会をもち、園児・児童の育ちや集団への適応に向けた方策を共有する。
- ◎保育園、幼稚園と小学校での具体的な共通した取り組みについて検討する。

[成果指標]

- ◇1年生が安心して小学校生活を始められるよう、スタートカリキュラムを計画的に実施する。
- ◇保護者アンケートの「保幼小連携」の項目で、肯定的回答90%以上を目指す。

④安心・安全な学校づくりの推進

≪目標⑬≫「いじめ」「不登校」への組織的対応

「いじめ」「不登校」や配慮を要する児童の情報の共有化を進め、組織対応の体制を整える。

[今年度の重点と方策]

- ◎「第三小学校いじめ防止基本方針」を基に、毎週火曜日の学校いじめ対策委員会で具体策を検討する。その日の内容を生活指導夕会で共有する。また日々の観察、学期1回のアンケート調査等を通じて、人間関係で不快を感じている児童(「いじめ」の定義を広く捉える)の早期発見につとめる。
- ◎配慮を要する児童については、特別支援コーディネーターを中心とした校内委員会を機能させ、全教員で対応にあたる。スクールカウンセラーと連携し、児童・保護者との相談を積極的に行う。
- ◎不登校傾向のある児童に対しては、登校支援コーディネーターを中心に校内委員会で情報を共有し、早期に家庭と連絡を取り、市の関係機関やSSW、その他の医療機関と連携を図る。

[成果指標]

- ◇保護者アンケートの「学校はいじめに適切に対応し、いじめのない学校づくりに取り組んでいる」について、肯定的回答 90%以上を目指す。
- ◇登校支援対策としての居場所づくりを、組織的に進める。月初めのいじめ対策委員会では、不登校傾向の児童について共通理解を図り、組織的・継続的に対応する。

≪目標⑭≫安全体制づくり

校内外の児童の安全体制を整備すると共に教職員の危機意識を高める。

[今年度の重点と方策]

- ◎「自分の命は自分で守る」を合言葉に、交通事故、防犯の未然防止に努めるとともに、毎月の避難訓練を現実に即した形で行い、児童、保護者の危機管理意識を高める。
- ◎毎月1回、教職員が分担して校内の施設・設備を点検し、日常的な整備につとめるとともに異常があればただちに対処する。
- ◎各学級における計画的な安全指導、地域の安全ボランティアの協力を得た登下校の安全確保の他、緊急時の保護者への連絡手段として、Home&School を有効的に活用する。
- ◎給食の安全・衛生確保に向け、管理職、栄養士、調理業者の連携を密にするとともに、4月当初にアレルギー児童の対応について全教職員で共通理解を図り、事故の防止に努める。

[成果指標]

- ◇実際に起きた時のことを想定して、予告なしの避難訓練の内容を充実させる。
- ◇給食アレルギー事故、交通事故等の大きな事故は0を維持する。

⑤組織体としての学校機能の発揮

≪目標⑮≫校務分掌の効率化

教職員一人一人が分担された校務に責任をもつとともに、主幹及び各分掌の主任、副主任がその機能を十分に発揮し、会議の効率化を図ることで、児童の教育活動のために割く時間を確保する。

[今年度の重点と方策]

- ◎分掌組織の改善を図り、少人数でも業務遂行が可能な組織体制をつくる。
- ◎文書起案は、各担当が昨年度の担当と事前に打ち合わせ、課題を十分に把握した上で時間的余裕をもって原案を作成し、主任、主幹、管理職の決裁を経て会議に提案する。

[成果指標]

- ◇各分掌、また各業務における仕事歴を作り、初めて取り組む人でも業務が進められる資料を作る。

≪目標⑯≫学校評価の活用

学校運営協議会を通して、教職員、児童、保護者、地域アンケートを活用した学校改善のための評価システム（マネジメントサイクル）を一段と充実させる。また、学校の情報を主体的に発信する。

[今年度の重点と方策]

- ◎自己評価と学校関係者評価（児童、保護者、学校評議員）の比較により得られた知見から、学校が主体性・自律性を発揮して学校改善策を立てる。
- ◎学校運営協議会委員には、年間8回の学校運営協議会を通じて学校経営の考え方や教育活動の様子を説明するとともに、授業や行事、研究会等を参観していただき、学校教育への理解を図る。
- ◎学校ホームページは毎週数回更新し、学校全体の様子や各学年の近況をタイムリーに発信する。

[成果指標]

- ◇保護者、地域アンケートにおいて、「学校は保護者、地域に対して適切に情報を提供している」の項目で肯定的回答を保護者・地域ともに90%以上を目指す。

≪目標⑰≫環境保全の推進

学校管理部門（事務、用務、栄養士）と管理職、教員との連絡、連携により、文書処理等の業務の効率化と教育活動の円滑な推進、児童安全、環境保全に努める。

[今年度の重点と方策]

- ◎教職員が学校予算を把握し、コスト意識をもって備品や消耗品を購入するとともに、管理職、事務職員、担当者が連携して計画的かつ効果的に予算の活用を図る。
- ◎私費については、本校のシステムに基づき、学年会計簿への記入など事故防止に向けた事務処理を、事務職員、学年担当、管理職が適切に行う。
- ◎管理職と学校衛生推進者（都事務職員）がリーダーシップを発揮し、八王子市環境マネジメントシステムに基づく環境配慮行動を積極的に行う。

[成果指標]

- ◇電気使用量、コピー使用料において、前年度比-を目指す。
- ◇学校配当予算、人権教育予算の執行率を管理職、担当者、事務の密な連携により極力100%に近づける。

⑥教員の資質・能力の向上

≪目標⑱≫同僚性の向上

教員同士が互いに学び合う「同僚性」を重視し、社会人として、専門職として、教育公務員としての常識と自覚、高い資質、能力を日常的な啓発により身に付ける。

[今年度の重点と方策]

- ◎年間2回の授業観察において、管理職と教員が指導内容や指導方法、学習環境等のよさや課題を共有して授業改善を図る。また、2回目の授業観察は研究テーマに即した授業を行う。加えて、授業観察や研究授業に向け同僚の授業を積極的に参観し、意見や感想を伝える。
- ◎教職員は、挨拶、言動、服装、接遇など、児童の安全を守り、児童を指導する立場にあることを自覚するとともに、常に人権感覚をもち、保護者や地域から信頼されるよう努める。
- ◎体罰、不適切な指導（言動）はもとより、児童の個人情報の管理など、サービスの厳正については、毎月の職員会議や夕会を活用して具体例をもとに徹底を図る。
- ◎文部科学省、東京都教育委員会、八王子市教育委員会、学校経営方針に基づき、卒業式、入学式等の儀式的行事を適切に実施する。
- ◎教科担任制を、ねらいに基づいて意図をもって計画し、効果的な実施を目指す。

[成果指標]

- ◇児童・保護者アンケートの「学級は落ち着いて学習できる雰囲気である」について、肯定的回答が児童、保護者とも80%以上になることを目指す。
- ◇保護者アンケートの「分かりやすい授業が行われている」について、肯定的に答える方の割合が85%以上になることを目指す。
- ◇サービス事故0を継続する。

上記の内容に基づき、管理職は教育に対する情熱と温かさ、厳しさをもって児童、教職員と関わるとともに、教育活動の計画、実行、評価、行動（改善）に責任をもち、第三小学校の教育の質と学校力の向上に努める。